

2008/07/22 (tue)

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「明るく長持ち 電球型 LED」
- 2) 「インターネットでライブ買付け」
- 3) 「“ご飯”復権」
- 4) 「人体における温暖化の影響」

1) 「明るく長持ち 電球型 LED」

東芝ライテックは、電球型発光ダイオード（LED）ランプの新製品 4 種類を 8 月 20 日に発売する。電球用ソケットにそのまま取り付けられるのが特徴。主に店舗の屋外看板やスポットライト用を想定しており、100ワットと 60ワットの白熱電球と同等の明るさを実現した。新製品のうち「ビームランプ 100W クラス」は、寿命は 2 万時間で消費電力は 8 分の 1 程度。市場想定価格は 1 万 5000 円前後。

LED ランプは、電球型蛍光灯と同様に、白熱灯より長寿命、省電力の光源としてメーカーが開発に力を入れている。

テレビ CM などでも消費者に省エネ製品への転換を進めているが、省エネ・長寿命をアピールしてもやはり一番前に出てくるのは価格。従来の電球の 10 倍以上すれば手も出ないと思う。今後量産されれば価格も安くなるのだろうが、もっともっと企業がこれまでとどう違うのか、どんなメリットがあるのかを伝えていかないと、家庭・個人レベルにまでエコ製品が浸透するのに時間がかかりそうだ。

2) 「インターネットでライブ買付け」

漁船燃料や道具などの価格高騰による深刻な漁業問題の中、流通から変えていこうという動きが見られる。

大阪では水揚げされた魚をビデオカメラで撮影、インターネットで生中継し、直接取引できる買付けが行われ始めた。インターネットでの中継・サイトの構築・商品の受け渡し・支払いは代行企業が請け負っている。

漁師から直接買付けるため安価で、ほとんどがその日のうちに販売店は仕入れることが出来る。漁師側が値段設定し買付けが行われるため、原価高騰に対する価格の反映が出来るなど双方にメリットがあり、仲介業者を多く通すこれまでの競りによる市場とは違った新しい流通となりそうだ。

売れ残りは近くの市場へ流すなど、柔軟な取り組みにより新たな流通経路が出来れば今後の漁業に光が見えてきそうだ。

3) 「“ご飯”復権」

以前の米離れから一転、“ご飯”市場が盛り上がってきている。

昨今のパンや麺類の価格高騰で、国内相場における米の割安感がある上、他の食品の価格も上がり、消費者が外食志向から内食へと回帰していることが背景にある。各方面でご飯関連商品の強化が見られてきている。

コンビニでは、サークルK サンクスが米と米粒状に加工したコンニャク成分とを混ぜた『カロリーコントロールおにぎり』を22日から発売。ファミリーマートでは、295円の『ミニごはん』シリーズを強化する。

各食品メーカーでも、“ご飯のお供”商品を拡充していく模様である。また、高級炊飯器の売れ行きも好調だ。

今後、より米市場が賑わえば、これまで減反政策などで苦境を強いられてきた米農家も潤う。和食離れした現代の日本家庭にも徐々に、元来のヘルシーで日本人の体にあった食事が戻りそうだ。

4) 「人体における温暖化の影響」

アメリカで、温暖化の影響で腎結石の患者が増えると予測されている。

テキサス大学の科学者によると、腎結石と気温の関連性が至る所で確認され、エアコンが作動している場所ですら、気温がより高ければそれに比例して結石も多いということだ。

脱水症によって引き起こされることが多い腎結石は、全米男性の約12%、女性の7%が患うと言われており、南東部の州は、北東部と比較して患者の割合が50%も高い。

今回の調査で、温暖化の影響で腎結石の多く発生する地域が北に押し上げられ、2050年までに160万人以上の患者を生むと予測された。現に1976年以降、腎結石の患者数は増加を続けている。

結石にかかるのを予防するには、水を飲み、体温の上昇を抑える。このほか、家族に治療歴がある場合はかかる率も高まるという。

また、イラクから帰還したアメリカ兵士の多くが腎結石を患っているという。

温暖化というと自然環境への影響を懸念することが多いが、人体にももちろん何らかの影響があるということを改めて考えさせられた。

住みやすい世の中になるほど環境が変わるスピードが早く、その分生物が進化する速度との開きが大きくなる。環境変化の速度を緩める努力がもっとも必要だ。